

課題名：★有田みかん産地の活性化～モデル共選を育成、産地へ普及～
 指導対象：★マル賢共選

1. 取組の背景

温州みかんを中心とした柑橘の主要産地である有田地域では、温州みかん価格の低迷や温暖化など気象変動の影響による高品質果実の生産が不安定となっており、温暖化に対応した技術や優良新品種の導入が課題となっている。また、担い手の減少や高齢化の進展などにより、担い手の確保、優良農地の保全などが課題である。

有田川町のマル賢共選では、浮皮の発生が少なく食味が早生に近い品種「きゅうき」の導入に向けて、平成27年度から試験的に改植を始めたことや、新たな担い手の確保と育成、共選内での農地貸借等に取り組んでいることから、この活動を総合的に支援することにより、共選ブランドの一層の向上、担い手の確保と育成、優良農地の保全など、果樹産地のモデル共選となる組織を育成し、産地への普及を目指す。

2. 活動内容

(1) 「きゅうき」の導入対策

「きゅうき」の栽培適地を把握するため平成27年に改植した園地条件等を確認し、そのうち立地条件の異なる6園地を実証園として設置した。また、昨年に引き続き6園地で高接ぎ樹の果実肥大・品質調査を行い、早生品種との比較検討を行った。

また、改植後の苗木の生育状況を確認するため、前年に他地域で改植された園地において現地研修会を開催した。

年明け出荷を想定し、簡易貯蔵した「きゅうき」の品質等を確認するため、1月中旬に関係者を集め、試食や意見交換を行った。



「きゅうき」改植実証園



苗木生育状況の確認

(2) 高品質果実の安定生産対策

浮き皮軽減対策として、ジベレリン+ジャスモン酸の混用散布の実証園を設置し、データの収集・分析を行い、マル賢共選生産部員に結果を報告した。

果実の品質向上を図るため、JAとともに全組合員を対象に後期摘果講習会を開催した。

(3) 担い手育成に対応した体制づくり

新たな担い手の確保と育成の状況について、共選役員とJA、振興局で協議を行った。

(4) 将来ビジョンをもつ組織モデルの育成

法人化について勉強するため、県農業会議から講師を招いて、法人化に関する研修会を開催した。また、将来ビジョンの作成に向けて、共選役員とJA、振興局で協議を行った。



法人化研修会

3. 具体的な成果

(1) 「きゅうき」の導入対策

調査データの提供や食味調査を実施することにより、「きゅうき」の情報量が増えてきた。また、1年先行して植栽した苗木の生育状況を確認したことで、幼木時の管理の重要性を認識することができた。



「きゅうき」試食検討会

(2) 高品質果実の安定生産対策

浮き皮軽減の効果については、平成27年の秋期が平年より高温で11月以降の雨量が多かったため、効果は低かった。

講習会を通じ、9月以降の後期摘果と収穫直前の樹上選別の徹底が、全組合員の中で浸透してきている。

(3) 担い手育成に対応した体制づくり

新たに加える若い組合員に対して、共選として農地の確保や技術支援などバックアップする体制が必要であるとの認識であった。

(4) 将来ビジョンをもつ組織モデルの育成

法人化に関する研修会に出席した組合員は、法人化の具体的なイメージを持つことができた。将来ビジョンの作成は共選にとっても必要であるとの認識であった。

4. 農家等からの評価・コメント (マル賢共選 M組合長)

「きゅうき」の導入に向けた品種特性や適地調査だけでなく、担い手や法人化のことなど、総合的に支援してもらえるのはありがたい。

5. 普及指導員のコメント (有田振興局農業振興課 主任 大橋真人)

「きゅうき」の適地導入に向けたデータの積み重ねが必要であり、苗木の生育や品質などの調査と説明を行っており、関係機関と情報共有に努めている。引き続き関係機関と連携しながら取り組んでいきたい。

担い手の確保や法人化などについて共選と話し合いを始めた。共選としても必要性は感じており、今後、具体的な取り組みを進めていく。

6. 現状・今後の展開

(1) 「きゅうき」の導入対策

品種特性や適地性を把握するため、今後も継続して実証園でのデータ収集、提供を行うとともに、関係機関と連携し栽培技術や情報を共有していく。

(2) 高品質果実の安定生産対策

引き続き、関係機関と連携して実証試験や講習会に取り組んでいく。

(3) 担い手育成に対応した体制づくり

新たな担い手の確保や育成に対応した体制づくりについて、引き続き検討を重ね支援する。

(4) 将来ビジョンをもつ組織モデルの育成

法人化を含めた将来ビジョンについて、今後も共選と協議を重ね、将来ビジョンの作成・実践に向けて支援する。